審査の結果の要旨

氏名　小町（長谷川）美由紀

本研究は集中治療室（Intensive Care Unit: ICU）入室後早期の患者の家族において、その急性ストレス障害（Acute Stress Disorder: ASD）関連症状に関して、緊急入室および予定入室の差および続き柄による症状の違いを明らかにし、また患者の重症度および家族が認識したソーシャルサポートの満足度が症状に与える影響を明らかにすることを目的として、ICU に緊急および予定入室した患者の家族 99 名に対し自記式質問紙および電子カルテから情報収集を実施し、下記の結果を得ている。

1. 改訂版出来事インパクト尺度日本語版（Japanese-Language Version of the Impact of Event Scale-Revised：IES-R-J,（以後 IES-R と記載））を使用して ASD 症状を測定し、緊急入室および予定入室別に IES-R 得点の平均値を比較した結果、緊急入室した患者の家族において、予定入室した患者の家族よりも IES-R 得点平均値が有意に高かった。緊急入室した患者の家族の ASD 症状のほうが、予定入室した患者の家族の ASD 症状より強いことが示唆された。
2. 入室形態と続き柄の主効果および交互作用を検討するため、IES-R 得点を従属変数とし、入室形態（緊急入室/予定入室）と続き柄（配偶者・パートナー/その他）を要因とした 2 元配置分散分析を実施した結果、入室形態に有意な主効果を認めた。一方、続き柄の主効果、および入室形態と続き柄の交互作用効果は有意ではなかった。続き柄に関わらず、緊急入室のほうが予定入室より家族の ASD 症状が強いことが示唆された。
3. ASD 症状に影響する要因を明らかにするために、IES-R 得点を従属変数とし、重要な基本属性（年齢、性別）と、ASD 症状との関連を検証する必要がある変数（入室形態、続き柄、患者の重症度を定量的に測定する APACHE II score の値、および家族が認識したソーシャルサポートの満足度［Social Support Questionnaire (SSQ)］を独立変数とした強制投入法による重回帰分析を実施した結果、患者の重症度およびソーシャルサポートの満足度は ASD 得点とは有意な関連を示さず、入室形態のみが有意に関連していた。ICU 入室形態はこれらの要因とは独立に家族の ASD 症状に影響することが示唆された。

以上、本論文は ICU に入室した患者の家族の ASD 症状を IES-R 得点により測定し、t 検定、および二元配置分散分析の結果、緊急入室した患者の家族のほうが予定入室の患者の家族より IES-R 得点平均値が有意に高く、また重回帰分析の結果、入室形態は他の要因とは独立に影響することが明らかとなった。本研究は ICU に早期に入室した患者の家族の ASD 症状を IES-R を使用し定量的に測定し解析したことにより、ICU に入室した患者の家族の精神状態の実態と関連要因の解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。